M theory and time measure potential equation and qunatum level of space ideality thoerem

Masaaki Yamaguchi

時間計量による、指数定理における擬微分と擬積分多様体を微小変量によって、大域的トポロジーが成されられる。ガンマ関数における大域的多様体と、ヒッグス方程式における大域的多様体の計算式を以下に、載せておく。

$$T^{\mu\nu T^{\mu\nu}} = \int T^{\mu\nu} ⧖_m$$

$$T^{\mu\nu T^{\mu\nu'}} = \int T^{\mu\nu} dx_m$$

$$\Gamma^{\gamma'} = \frac{d}{d\gamma}\Gamma$$

$$\Gamma^{\gamma} = \int \Gamma dx_m$$

$$⧖ = \int x^x dx_m$$

ヒッグス場方程式が、相加相乗平均方程式であり、大域的多様体でもある。

$$\frac{d}{df}F(x, y) = m(x)$$

$$= \frac{d}{dm(x)}M = \partial(\sigma(M))$$

$$= \frac{d}{d⧖}Z'(\zeta)dx_m$$

$$||ds^2|| = \nabla_i\nabla_j \int \nabla M(\sigma)d\eta$$

M 理論の指数定理による擬微分と擬積分多様体が、ヘルマンダー作用素からのノルム空間となり、

$$= M^{m(x)'}$$

M 理論のニュートン方式の大域的微分多様体になる。

$$||ds^2|| = \int_M [d(\partial) + d(\sigma)]dI_m$$

それが、D-brane の M 理論へと導かれる。

$$\frac{d}{df}(e^{-f} + e^f) = \frac{d}{dR'}R = d[I_m]$$

結局は、Jones 多項式における、大域的多様体としての、虚数微分方程式となる。リッチ・フロー方程式による、大域的多様体の擬微分と擬積分多様体の計算式が、ニュートン方式による、擬積分と擬微分多様体となり、時間計量が、相対性による、測量がなくなり、空間計量となり、空間概念の量子化となる。